

県 南 思 考 Vol.26

特集：前進。新型コロナウイルス対策

地域から感染者こそ出したものの、クラスター、いわゆる集団感染をおさえ、なんとか新型コロナウイルスの封じ込めに成功しているかにみえる南房総。治療薬、ワクチンが開発されるまでガマンの日々が続きますが、そのコロナ対策をさらに強化させるため9月末、館山市に「地域外来・検査センター」が開設されました。これは館山市、南房総市、鴨川市、鋸南町、3市1町の市民を対象に、従来、保健所を通して行われていたPCR検査を、かかりつけ医経由でスピーディーに行うというものです。発熱外来も併設されたことで、コロナウイルス対策だけでなく、一般病院の負担を減らし、地域医療の大きな改善が期待されています。



特集：前進。新型コロナウイルス対策

一丸となってウイルスと戦うために。 スムーズな検査と地域医療の健全化。 ふたつを両立させるセンターが開設された。



館山市山本。

地域医療の中核をになう安房地域医療センターの駐車場に、9月30日、PCR検査を行う「地域外来・検査センター」がオープンしました。

県南地域の新型コロナウイルス感染症対策として設置されたもので、感染の陽性、陰性を判断するPCR検査センターと、発熱などの症状がある患者に対し、一般的の外来と区別して対応する「発熱外来」が併設されています。

従来、新型コロナウイルスに感染の疑いのある患者に対しては保健所を介して、検査を実施していました。

その結果、保健所に問い合わせが集中し、人員不足もあって、連絡がうまく取れないなどスムーズな処理ができず、患者に大きなストレスを与えたケースが続出しました。

「地域外来・検査センター」では、地域の診療所、かかりつけ医などの紹介からダイレクトに検査を受けることが可能になり、そのプロセスがスピーディーに改善されています。

新型コロナウイルスの猛威

2019年暮れ。中華人民共和国の武漢市付近で初めて発生が確認され、一気に世界中に拡散した新型コロナウイルス。

本年3月には、世界保健機関(WHO)によってパンデミック(世界的流行)が宣言され、日本各地でも感染が拡大しました。

4月には緊急事態宣言が発令され、千葉県は5月25日に全面解除されるまで、およそ1か月半、不要不急の外出や、「密閉」「密集」「密接」の、いわゆる三密を避け、家族以外の多人数での会食を避けるなど、不自由な自粛生活を余儀なくされました。

11月9日現在で、全国の感染者数は約

108,000人。千葉県全体で5,386人。

県南地域では4月2日、南房総市内で60代の男性患者に陽性反応が出たのを第一号に、7月に入って館山市で感染者が相次ぎ、今日まで、館山市11名、南房総市2名、鴨川市1名の感染者が出ています(鋸南町0名)。

この間、鴨川市の亀田総合病院、南房総市の市立富山国保病院が感染、発症の疑いのある患者に対応。

富山国保病院では、それまで入院していた患者に近隣の病院へ転院してもらい、一般外来や人間ドックは診療を休止。新型コロナウイルス専門の病院として稼働させて事態に対応してきました。

医療従事者の献身的な活動と、市民ひとりひとりの自衛策によって、クラスターなど爆発的な感染拡大には至っていない南房総地域ですが、これから冬にかけ、心配されるのはインフルエンザの流行。

新型コロナウイルスとインフルエンザは症状が似通っているため、医療現場にますます負担がかかる事態が予想されます。

そうした背景もあって、館山市、南房総市、鴨川市、鋸南町の3市1町と安房医師会が一丸となって県にはたらきかけ、「地域外来・検査センター」の設置を要請。

設置場所として、市民はもちろん医療スタッフにとってもアクセスのいい館山市の安房地域医療センターが選ばれ、活動をスタートさせました。

市民にとって心強いセンターの開設

対象は3市1町の市民で、検査の流れは、次のようになります。

- ① 発熱や咳など、新型コロナウイルスに感染した疑いの症状が出たら、かかり



▲館山市から南房総市へ向かう国道128号線にある安房地域医療センター。その駐車場の一角に「地域外来・検査センター」は設置された

つけ医など地域の医療機関で受診

- ② 医師が診察し「PCR検査が必要」と判断した場合、センターに連絡し検査を予約
- ③ 予約された日にセンターを訪れ医師による診察を受けたうえで、必要と判断された場合は検査を実施

PCR検査は、綿棒状のスティックを鼻腔に差しこみ、検体を取るという、ごく簡単なもの。

結果が出るまで、約1日ほどかかりますが、検査内容は患者、ならびに紹介元の医師に報告され、陰性ならばひと安心。

陽性と判断された場合はそれ以降、保健



▲センター内は、受付、診察室などで構成されている。診察室に立つ木下県議(左)、三沢県議(右)

所の指示に従っていくことになります。

費用は国費でまかなわれるため、患者の負担は初診料などを支払うだけで検査自体は無料です。

現在、診察、検査は月、水、金と、週に3回おこなわれ、1日におよそ20名の患者に対応することが可能で、今後、感染の状況によっては、規模を拡大できるシステムになっています。

新型コロナウイルスの感染者調べてみると、およそ8割が軽症患者で、状態が安定しているケースがほとんど。

その軽症患者が重症患者と同じ病院に集中すれば、医療現場が混乱してしまいます。

「地域外来・検査センター」が、その前段階として防波堤的なワンクッションを果たすことで、各地の医療施設は、本来の医療体制を維持することが可能になります。

一方、保健所は業務負担が軽減され、また、市民にとっては、いつでも身近なかかりつけ医を通して気軽に検査が受けられ



▲検査キット一式。長い綿棒を鼻の奥にさしこんで検体を採取。ケースに密閉し、専門の検査機関に送られる

る体制が整備されたことで、「ここがあるから安心だ」と、心理的に大きなプラス。

新型コロナウイルスと戦うための拠点であり、同時に地域医療の健全化、このふたつを同時に実現する「地域外来・検査センター」。

地域が一丸となって感染を抑制し、沈静化させるために、その活動に期待が集まります。

今回の記事は下記の方々にお話を伺って作成されました。紙面を借り、あらためて御礼申しあげます。



●千葉県健康福祉部
渡辺真俊保健医療担当部長



●安房医師会 原徹会長



●社会福祉法人太陽会 安房地域医療センター
(左から) 曽木美佐新型コロナウイルス感染症対策本部本部長/総合診療科部長/感染管理室室長、亀田信介理事長、福内正義院長

Pin Point インタビュー

県の担当におたずねします

南房総エリアにおける新型コロナウイルスの感染状況と、今後の対策について、専門家にうかがいました。

県南地域の新型コロナウイルス 現在の感染状況を教えてください

11月9日現在で県南地域の感染者数を整理すると、館山市で11名、南房総市で2名、鴨川市で1名、鋸南町では0名となっています。ただ、重症化したケースはなく、咳と熱が出るレベルで、一部で重い肺炎症状が出た患者さんもいましたが、いまでは普通の市民生活に戻っています。患者さんは鴨川の亀田病院、富山の国保病院で入院、治療に当たり、ほかの病院も念のためバックアップする体制を整えていましたが、感染が拡大しなかったことで、現時点では、両病院による対応で済んでいます。国保病院では要請を受け、県北からの患者さんも受け入れています。

爆発的な感染拡大を抑えている その原因はどこにあるのでしょうか

県南で感染者が出たといっても、正確に言うと感染が発覚したにすぎません。すべて他県で感染され、県南に戻ったところで発覚したことが判明しています。どのケースも陽性反応が出て感染が発覚した段階ですぐに隔離して入院していただき、一般との接点を防いだこと。つまり、早期発見が功を奏したと考えています。もちろん、市民の方々が自粛生活を守り、この間、手洗

い、うがい、三密を避けるなどの生活様式を守つて来られたことも原因のひとつでしょう。また人口密度が低く、市街地を除けば一軒一軒の住まいも離れていて、風通しもよく、いわゆる濃厚接触を避けることができる環境にあったことも大きいと考えられます。

新たな検査センターの開設で これからコロナ対策はどうなりますか

これまで、感染が疑われる患者さんに対し、保健所を介してPCR検査を実施していましたが、今後は、かかりつけ医を介して行うこともできるようになり、結果的に、保健所にとっては、その手配が必要なくなった分、陽性反応患者が出た場合の対応、周辺の感染状況を調べて感染拡大を防ぐための業務に集中できるようになりました。検査を受ける市民の皆さんにとっては、ふだん保健所とはほとんど接点がないでしょうから、保健所への相談はハードルが高いはずです。その点、いつも接しているかかりつけのお医者さんなら、気安く相談に行くことができます。つまりPCR検査のハードルが格段に下がったわけで、これは市民の方に安心感を与えると思います。いま、PCR検査ができる施設を増やすために、一般のお医者さんでも簡易キットで検査で



新型コロナウイルスの感染対策を語り合う(左から)木下県議、小澤一典館山市/健康福祉部長、辻村信正千葉県安房健康福祉センター/センター長、三沢県議

きるような形になりつつあります。いずれそれが一般化していくばインフルエンザの流行にもスムーズに対応できるでしょうし、すでに安房地域では多くの医師の方々に手を挙げていただいておりますので、今後はその方向へ向かって加速させていく予定です。

■新型コロナウイルス 主な県南エリアの感染者数(累計) (11月9日現在 千葉県調べ)

自治体名	患者数
館山市	11名
南房総市	2名
鴨川市	1名
鋸南町	0名
富津市	5名
木更津市	69名
勝浦市	7名

特集：前進。新型コロナウイルス対策

結びの対論

三沢県議×木下県議

このままでは県南がもたない。
強力でスピーディーな経済対策と
1日も早いワクチン、治療薬の開発を。

木下 それにしても大変な時代になりました。

三沢 マスク着用にソーシャルディスタンス。不自由な生活を強いられるだけでなく、地域経済が疲弊してしまって、観光が主要産業である南房総エリアでは、早く収束してくれないと生活が成り立っていくかなくなる。

木下 旅館、ホテル、民宿など昨年の大型台風で大きな被害を受け、ゴールデンウイーク、夏休みで挽回をと期待していたところへ、今回のコロナ直撃を受けた。

三沢 Go to キャンペーンが始まって、館山方面の大きなホテル、料理自慢の高級旅館などはお客様が戻ってきているようですが。

木下 ただ、ごく庶民的な旅館、あるいは民宿といった施設に以前のように客が戻らない限り、なかなか本格的な経済回復にはならない。

三沢 東京隣接の県北と違って、県南エリアは感染者こそ出したものの、爆発的な感染拡大はなんとか抑えられています。

木下 感染者のプロフィールを見てみると、たまたま県南で感染が発覚しただけで、地域での発症はないのが実情でしょう。

三沢 館山の感染者数が多いのは、家族で感染した結果、数字が一気に増えてしまったんですね。それもすぐに対応したので拡散しないですみました。

木下 感染した患者さんは症状に応じて富山の国保病院か亀田病院に入院され、国保病院では松戸などからの軽症患者も引き受け、対応に当たったと聞いています。

三沢 それ以外にも、今回取材させていただいた安房地域医療センターなども体制は整っていたんですが、さいわい、感染が広がらなかつたので現状ではふたつの病院だけで済んでいます。

木下 なぜ感染拡大が抑えられているのか。やはり人口密度が低いことが原因でしょう。都心と違って、少し幹線道路を離れると田んぼや畠の中に民家が点在する。この環境が感染を防いだことは間違いないはずです。

三沢 とはいっても、平均年齢が高く高齢者が多く暮らす南房総地域では、いったん感染が拡大したら大変なことになる。そう思うとまったく気が抜けませんね。

木下 それにしても、一連のコロナ禍に対して医療従事者の皆さんを見せた活動には感謝しかありませんね。6月の補正予算で千葉県内の医療従事者約15万人を対象に、そのポジションに応じて慰労金が支給されました。

三沢 介護施設や障害者支援施設などに勤務する方々に対しても同じように対応しています。

木下 実際、患者を受け入れた現場では生命の危険にさらされただけ



でなく、場合によっては家族にすら会えないなどというケースもあったようですからね。

三沢 その自己犠牲には頭が下がりますね。市民の方々も、みな感謝していると思います。

木下 今回、安房医師会の働きかけを受けて「地域外来・検査センター」の実現に至ったわけですが、かなり素早く開設に至ったのは医師会がまとまっていたというのが大きいですね。

三沢 車両を改造したりする簡易的な施設は海外のニュースなどでよく見ますが、本格的に発熱外来を併設したセンターの設置は市民にとっても心強い。

木下 もうひとつは行政がまとめたことでしょうか。3市1町がひとつになって働きかけた。そのことはイコール、市民の総意として県に働きかけた結果ですから、それが大きかったですね。

三沢 とにかく相手は台風と違って見えない敵。終わりの見えない敵との戦いに早く終止符を打たなければならない。

木下 一連の感染拡大以降、我々の議員活動も、さまざまな制約を受け、あらゆる会合はなくなる、それに付随する宴席もキャンセルになる。お葬式も法事も自粛になってしまいましたからね。

三沢 当然、飲食店は売り上げがなくなる。それだけでなく、そこに食材を入れている業者もアウト。高級魚の伊勢海老やアワビも東京の料理屋が動いていないので、流れていかない。

木下 ですから、どこの学校だったか、国の予算がついて給食に伊勢海老が使われたと聞いたことがあります。ただ、そうは言ひながら値段が下がったままでしょうから、漁師さんたちは辛いはずです。

三沢 花卉類はパーティーがなくなり需要がガタッと落ちている。こうした背景もあって9月の定例県議会で質問に立ち、経済の活性化について問題を投げかけました。

木下 Go to 以外にも、さまざまな観光キャンペーンを打ち出して、県内、県外を問わず多くの人に足を運んでいただきなければならない。

三沢 全国一律の給付金など配布されましたが、次のステップが必要でしょう。そうでないと、どこも、もうもたない。若い世代が経営する飲食店ではテイクアウトを重視するなど、まだチャレンジする体力、気力が残っているでしょうが、高齢者はついていけない。家族経営でなんとか維持している今のうちに次の手を打たなければと思いますね。

木下もちろん経済対策も必要なんですが、なんといっても根本は医療でしょう。いまのインフルエンザのように、かかっても薬があるし、ふだん通りの暮らしに戻ることができる、コロナがそうならないと根本的な経済復旧にはならない。そういう意味でも、一日も早いワクチン、治療薬の開発、実用化を祈りたいですね。

木下 敬二（きしたけいじ）

南房総市・安房郡選出
昭和23年5月17日生まれ
事務所/〒295-0005
南房総市千倉町牧田164-1
TEL: 0470-44-4111
FAX: 0470-44-4112
<http://kishitakeiji.com/>
e-mail: info@kishitakeiji.com

主な議員履歴
●自由民主党千葉県支部連合会関係
総合企画水道部会／部会長
商工労働企業部／部会長
筆頭副幹事長
政務調査会長

●千葉県議会関係
総務常任委員会／委員長
農林水産常任委員会／委員長
議会運営委員会／委員
千葉県環境審議会／委員
県議会／副議長

県南思考 Vol.26

発行: 2020年11月22日
制作: 「県南思考」制作委員会
編集: 式守編集工房
デザイン: TMS
南の風を県政に。南房総選出の県議による「県南思考」は市民の皆さんとともに、県南のあるべき姿を追い求めていきます。本紙をお読みになった感想、ご要望、その他ご意見は各県議の事務所までお気軽に寄せください。



三沢 智（みさわさとし）

館山市選出
昭和29年11月14日生まれ
事務所/〒294-0037
館山市長須賀470-1
TEL: 0470-22-3051
FAX: 0470-22-3052
<http://misawasatoshi.com/>
e-mail: office@misawasatoshi.com